

平成21年度 学校自己評価表

(計画段階・実施段階)

85

福岡県立田川高等学校長

印

学校運営計画 (4月)		評価 (3月)		
学校運営方針 校訓を重んじ、いかなる時代にあっても五常の徳目を有し、地域はもとより国際社会に貢献できる人物の育成に努める。				
昨年度の成果と課題 1 生徒の自宅学習時間の確保と、習熟度別授業を実施し授業内容の工夫・改善を行い、学力向上に努める。 2 広報活動はやれることは、すべてやっていく。				
21年度重点目標 自ら考え、判断し、自分自身の行動に責任の持てる主体性に富んだ人物の育成。 規律と責任を重んずる生徒の育成。 正義と人間尊重の精神に満ちた、感性豊かな生徒の育成。 真理を探究することの喜びを体得できる生徒の育成。 自分自身の資質と能力を十分に発揮し、自らの進路を明確な目標を持って選択できる生徒の育成。 学力向上、生徒の規範意識の育成、及び人権感覚育成に努める。 志を持って意欲的に学び、自律心と思いやりの心を持つたくましい生徒を育成。 中学校及び地域への発信、学校HP及び広報誌の充実。		具体的目標 生徒一人ひとりに応じた進路実現を目指し、学力の伸長に努める。 挨拶の励行や、服装・頭髪の整備等、基本的な生活習慣の確立に努める。 人権尊重の精神の涵養と、豊かな感性を持った人物の育成に努める。 職員研修を通して教師の力量の向上を図るとともに、授業改善に努める。 基礎学力の養成に努め、更に自分の興味関心や適性を考えさせながら、自己理解を深めていく中で、適切な進路選択ができるよう指導していく。 学力向上についての調査研究活動を継続、発展に努める。特に、生徒へ「生活の記録」をつけさせ、生徒が自覚して自主的に勉強する姿勢を育成する。 学校行事やHR活動等の中で、平素から「水平線上に突起をつくれ」の精神を喚起し、たくましい田川健児を育成する。特に、「田川高校前勾金駅」のボランティア清掃活動等とおして、田川健児として自覚を促す。 学校機関誌「田川高校へこう」の発行と学校紹介HPの更新とその充実。		
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価 (3月)	次年度の主な課題
教務	学習環境の整備	翌月の授業予定を作成し、32週分の年間の授業時間数の確保に努める。 職員朝礼の効率化を図り、学年連絡及び朝のSHRの充実を図る。 月毎に出欠状況の把握に努め、教育相談委員会と連携し「気になる生徒」の早期発見及び指導に努める。		
	授業内容の改善	生徒による授業評価を年間2回実施し、指導力向上に資する。 教科会議を中心に、各考査問題及び大学入試問題の分析を行い、指導技術の向上に努める。 シラバスの活用により、学習内容における教科内の共通認識を深める。		
	家庭学習の定着	学習時間調査や教科担当者による面談を行い、生徒の学習状況を把握し指導の一助とする。 新入生ORにおける学習方法体験ゼミにより、学習方法のスキルアップを図る。		
	双方向の広報活動	「魅力ある学校」としての評価を高めるために、刊行物や学校ホームページを通して、教育活動の成果を校外に積極的に発信する。同時に、校外の情報についても校内に積極的に広め、教育活動の更なる充実・改善につなげる。また、各活動の効果について具体的に検証し、見直しを図る。		
	P T A との連携	P T A 役員会を年間5回以上実施し、父母 - 教師間の連携を充実させながら、学校行事等への積極的な協力を求めていく。		
	90周年記念事業の継承と百周年記念事業の準備	100周年記念事業に向けて、90周年記念事業で得られたソフト・ハード両面の財産を活用する。各種資料や行事記録についても、10年後を視野に入れて整理していく。		
生徒指導	生徒会活動・部活動の活性化	生徒会活動については、生徒が主体的に活動することを促進し、学校行事や生徒会行事の活性化を図る。生徒一人一人が達成感・充実感を持てるよう支援する。		
	積極的生徒指導の推進	学期に1回は個人面談を行い教育相談体制を充実させ、全校集会や学年集会及びHR等において規範意識を高め、特別指導は昨年の1/2件を目標とする。		
	完全下校時間の厳守と基本的な生活習慣の確立	完全下校を徹底し時間を守らせ、ケジメ・メリハリのある学校生活を送ることで基本的な生活習慣を身につけ、教務と協力し遅刻を昨年の3/4に減らすことを目標とする。		
	健康意識の高揚と、自己管理能力の育成	健康診断及び健康相談の充実を図り、生徒一人一人の自己管理能力を育成するための啓発活動に取り組む。 保健委員会の育成に努め、年8回以上の保健だよりの発行を行う。		
	相談活動の実施	カウンセラーの年間18回の配置とその有効的活用。性の健康相談(2回)の実施。		
	美化意識の高揚	校内大掃除を年間13回、美化コンクールを5回実施し、校内美化に積極的に取り組む。		
進路指導	キャリア教育の観点に立った進路学習の推進	総学との連携により、生徒の主体的な進路選択能力を高めるための系統的な進路HRを年間5回実施する。		
	希望進路実現のための基礎学力の養成	F B テストや校外模擬試験を計画的に実施し、学習状況の把握及び弱点克服のための継続的な指導を行う。		
	生徒の実態を把握した上での個に応じた指導	担任や教科担当者と生徒との個人面談の回数・内容を充実させる。推薦入試やAO入試等の多様な入試形態についても生徒の適性に応じ有効活用を進める。		
	進路意識高揚のための情報提供	進路ニュースの内容の充実を図り、年間5回を目標に発行する。大学との連携による出前授業や卒業生による講演会などを学期に1回程度実施し、進路意識の高揚を図る。		
	研究授業(公開授業)の実施	教師の授業スキルの上と本校のPRの両面に寄与することを目的として、年間、研究授業は2回、公開授業は1回実施する。		
	職員研修の充実	各分掌と相談し、教職員のためになる有効な研修会を計画し、各学期に1回程度実施する。		
人権・同和育	研究紀要の発行	研究授業及び各種研修会の報告や個人研究などを広く職員に求め、紀要にまとめる。		
	人権感覚の豊かな生徒の育成	教職員自身の人権意識を高めるとともに、人権・同和教育LHRや講演会の充実を図る。		
	校内教職員研修の充実	外部講師の招聘、参加型体験学習の導入を行う。		